

演習林の再生に向けての取り組み

グリーンライフ科グリーンライフコース 須藤千尋

1 取り組み概要

本校演習林は80haと広大であり、現在は多くの樹木が伐採適期を過ぎてしまい、林床も多くのササに覆われ植生が乏しく、管理・保全が必要な状況である。そこでグリーンライフコースではこのような問題を解決するために林業に関わる基礎的な知識や技術を身につけ、森林を有効に活用する方法を見出し、演習林再生に向けた取り組みをしている。

2 具体的な取り組み

(1) 演習林内の植生調査

植生調査を実施することにより、現在の演習林の状況や今後の管理・保全作業において目指すべき演習林の姿を明確にする。また植生調査することにより植物種ごとの生態について学ぶことができる。



写真1 植生調査



写真2 刈り払い未実施区比較調査

(2) 演習林管理・保全

下草刈りや間伐をメインとして実施し、演習林内の環境を適切な状態にしていく。現在林床はササに覆われ、見通しもよくないため下草刈りをする事によって森林景観を良好に保つことができる。間伐材についてはチップーシュレッダーを活用し、登山道の整備や木質バイオマスとして有効活用できる。



写真3 刈り払い作業



写真4 間伐作業

(3) 野生動物調査

演習林周辺にはツキノワグマ、ニホンジカ、イノシシをはじめ、ムササビ、ノウサギ、リス、イタチなどの小動物が多く生息する。これらの動物の行動範囲や生態などをアニマルトラッキング、センサーカメラの活用により調査する。今年度についてはムササビについて詳しく調査し、センサーカメラによる撮影だけでなく、巣箱を設置し調査している。



写真5 センサーカメラ写真①



写真6 センサーカメラ写真②



写真7 熊はぎ



写真8 ムササビ親子（実習棟前）

(4) 自然体験・林業体験

前橋市児童文化センターとの連携事業「環境冒険隊」において自然体験・林業体験を実施している。特に林業体験においては実際に参加者である小中学生に間伐作業を体験してもらい、林業における管理作業の大切さと自然の仕組みについて学習する機会を設けている。またここでは自然体験のひとつのプログラムとしてツリーイングをおこなっている。



写真9 間伐体験



写真10 ツリーイング体験